

事務連絡
平成30年12月5日

日本医学会 御中

厚生労働省医政局地域医療計画課

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）愛称決定について

平素より、厚生労働行政の推進に格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
標記について、別紙のとおり各都道府県衛生主管部（局）あてに連絡しました。

今後、ACPの取組を広げるにあたり、「人生会議」という愛称を使用してまいりますので、貴団体におかれましては、「人生会議」の周知についてご協力賜りますようお願い申し上げます。

平成30年12月12日

日本医学会分科会 事務局御中

日本医学会

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）愛称決定について（周知依頼）

平素より、本会の事業推進にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、平成30年12月5日付にて、厚生労働省医政局地域医療計画課より、別添の通り、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）愛称決定についての周知依頼がありましたので、貴学会の会員各位に周知の程よろしくお願ひします。

関連URLは下記の通りです。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02615.html

なお、詳細は、担当の厚生労働省医政局地域医療計画課在宅医療推進室〔電話：03-5253-1111（内線2662）〕にお問い合わせ下さいますようお願い申し上げます。

日本医学会 電話：03-3946-2121（内線4260）
（担当：高橋）

各都道府県 衛生主管部（局）御中

厚生労働省医政局地域医療計画課

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の愛称を「人生会議」に決定しました

人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組み、「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」について、愛称を「人生会議」に決定しましたので、お知らせします。

ACPの愛称募集は8月13日から9月14日に実施したもので、応募総数1,073件の中から、愛称選定委員会により選定され、11月30日開催の愛称発表会にて公表しました。

また、11月30日(いい看取り・看取られ)を「人生会議の日」とし、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日とします。「人生会議」及び「人生会議の日」は、今後、ACPの普及啓発に活用し、認知度の向上を図っていきたいと考えておりますので、貴職におかれましては、広報にご活用いただくとともに、貴管下の市町村(特別区を含む。)を始め、関係者関係団体等への周知方よろしくをお願いします。

なお、今回決定したのは「人生会議」という愛称のみであり、字体・ロゴ等デザインは今後厚生労働省で検討する予定としております。

記

1 選定愛称：人生会議

選定理由：

- ・意味が明確な単語の組み合わせにより、日常会話に浸透していくことが期待できる。
- ・家族等、信頼できる人たちと輪を囲んで話し合う、というイメージが湧く。

2 応募者：須藤 麻友さん 看護師（聖隷浜松病院）

3 参考URL

ACP愛称決定について詳しくはこちらをご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02615.html

照会先

厚生労働省医政局地域医療計画課

在宅医療推進室 在宅看護専門官 猿渡

在宅医療係 田中・梶山・染野

電話：03-5253-1111（内線：2662）

終末期の治療方針

「人生会議」で話し合って

終末期の患者が家族や医師と入念に話し合って治療方針を決める「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」について厚生労働省は30日、「人生会議」という愛称で呼ぶことを決めた。公募に寄せられた約千件の案の中から専門家や放

送作家など8人の委員が選んだ。愛称をつけることでACPを普及、浸透させる狙いがある。

ACPは終末期に病状が悪化し、患者本人が意思表示できなくなる場合に備え、将来の治療方針について家族や医師などと話し合

厚労省が愛称決定

いを重ねる過程を指す。欧米で普及し、患者が望む医療を実現できるとして厚労省は周知を目指しているが、一般的な認知度は低い。

選定委員会の座長を務めた元NHKアナウンサー、内多勝康さん(55)は「『うちもそろそろ人生会議しよう』というように、日常会話になることを期待したい」と話した。

■「最期」への対話「人生会議」

望む医療やケアを最期まで受けられるように、家族や主治医と繰り返し話し合っておく取り組みについて厚生労働省は30日、愛称を、「人生会議」とすると発表した。「いいみとり」の語呂に合わせ、11月30日を「人生会議の日」に決め、広報していく。8月から公募し、1073件の中から聖隷浜松病院看護師の須藤麻友さん(29)の「人生会議」を選んだ。

最期の治療どうする？話し合うのは「人生会議」愛称決定

11/30(金) 19:26配信

朝日新聞
DIGITAL



「人生会議」を応募した須藤麻友さん（左から3人目）と愛称選定委員会の委員ら＝東京・霞が関の厚生労働省

望む医療やケアを最期まで受けられるように、家族や主治医と繰り返し話し合っておく取り組みについて厚生労働省は30日、愛称を、「人生会議」とすると発表した。「いいみとり」の語呂に合わせ、11月30日を「人生会議の日」に決め、人生の最終段階の医療やケアを考える日として広報していく。

8月から公募し、1073件の中から聖隷浜松病院看護師の須藤麻友さん（29）の「人生会議」を選んだ。タレントの小藪千豊さんや放送作家の小山薫堂さんらが選定委員会を務めた。座長の元NHKアナウンサー内多勝康さんは「うちもそろそろ人生会議をやろうよ、という日常会話になることを期待しています」

小山さんは「家族とともに、残りの人生をどう豊かに過ごすか話し、ごく自然に『最期はこういう風に迎えたい』となっていく。そんな可能性を秘めた言葉だと感じた」と語った。

取り組みは「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」と呼ばれ、「患者の意思決定支援計画」などと訳されてきた。本人の希望に沿った医療やケアを選べる有効な手段として、厚労省が普及させようとしてきたが、知名度が低く、「名称がわかりにくい」などの課題があった。（阿部彰芳）

終末期話し合う「人生会議」を

11/30(金) 19:12配信



アドバンス・ケア・プランニングの愛称「人生会議」を発表する須藤麻友さん(中央) = 30日午後、東京都千代田区

「人生会議」で最期の迎え方を話し合おう。終末期にどのような医療やケアを受けるか、事前に家族や医師らと繰り返し話し合う「アドバンス・ケア・プランニング (ACP)」という取り組みを普及させようと、厚生労働省は30日、愛称を「人生会議」に決め、公表した。

分かりやすい呼び名を付けることで、ACPを身近に感じてもらい、周囲との話し合いを促す狙い。厚生労働省は毎年11月30日を「人生会議の日」と定めたことも発表した。「いいみとり、いいみとられ」の意

味を込めた。

ACPの愛称は8～9月に公募した結果、1073件の応募があり、浜松市の看護師、須藤麻友さんの案が選ばれた。

ACP愛称「人生会議」に＝終末期に望む医療、話し合いを－厚労省

2018年11月30日19時32分

乾癬治療は、今も進化を続けています。 [乾癬治療の今を詳しく見る](#)  

人生の最終段階に本人が希望する医療やケアを受けられるよう、あらかじめ家族や医師らと繰り返し話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の取り組みについて、厚生労働省は30日、愛称を「人生会議」とすることを決定した。また、「いいみとり・みとられ」の語呂合わせで、11月30日を「人生会議の日」と決めた。

厚労省は3月、終末期医療の指針を改訂し、ACPの考え方を盛り込んだ。しかし、ACPでは分かりにくいとの指摘があり、国民になじみやすい愛称を公募。タレントの小藪千豊さん、放送作家の小山薫堂さん、サントリーホールディングス社長の新浪剛史さんら8人の選定委員会が、1073件の応募作品から選んだ。

作品が採用された浜松市の看護師、須藤麻友さん（29）は、厚労省内で開かれた発表会で「日本中の方々が食卓の場など身近な場面でも話せるぐらい浸透してほしいという思いを強く持ち、人生会議とした」と話した。（2018/11/30-19:32）

[【社会記事一覧へ】](#) [【アクセスランキング】](#)



「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の愛称「人生会議」を応募し、採用された須藤麻友さん（中央）＝30日午後、厚生労働省